

ケースの概略

ゴミ屋敷状態の家があるとして近隣住民から苦情を受け、自立相談支援機関の相談支援員が訪問した。なかなか本人に会うことができず、定期的に訪問しながら、近隣からも本人についての情報を得ることができた。外に働きに出ているようで数日留守にすることも多い。家賃の滞納などはないため、大家も片付けるよう強く伝えることができずにいる。

◆現在わかっていること

【本人】

- ・女性
- ・年齢不詳
- ・一人暮らし
- ・猫を飼っている
- ・外に働きに出ている様子

【周囲】

- ・向かいの住人 A：困っている
- ・隣の住人 B：怒っている「行政がゴミを片付けるべき」
- ・斜め前の住人 C：協力的（猫の話題などで唯一、会話あり。ボランティア活動をしている）
- ・大家：家賃の支払い時に会う程度
- ・民生委員：ときどき様子を見にきているが、会えていない

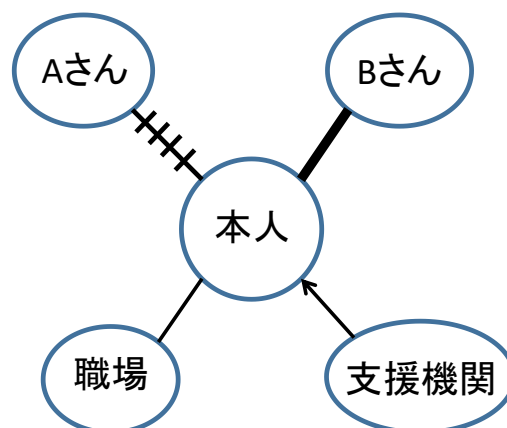
■個人ワーク エコマップの作成について解説

中心に本人を置き、その周りに関係性のある人物や機関を配置して、関係性を線でつなぎます。

【関係性の線】

強い関係	—————
普通の関係	—————
弱い関係
対立関係	+++++
働きかけの方向	—————>

【エコマップの例】



次のページにエコマップ作成シートがございます。

【講義と演習⑥】個を支える地域づくり（前半）

■個人ワーク エコマップ① 最初に訪問する前

現状のエコマップを下に作成してください。

■個人ワーク エコマップ② 会ってから現在

現状のエコマップを下に作成してください。